

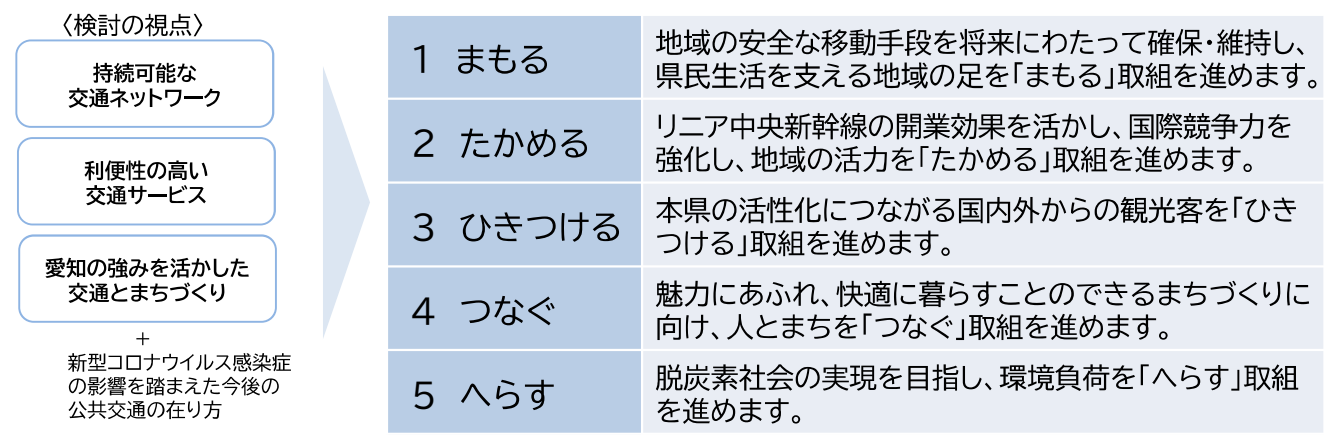


- 2026年度までに取り組む施策のビジョンとして、2021年度に策定
- 交通分野で取り組む施策の方向性を示し、国・県・市町村・交通事業者・県民等の連携した取組を促進する

目指すべき姿

危機を乗り越え、輝く未来へつなぐ あいちの交通  
～モビリティ先進県を目指して～

施策の方向性



2

愛知県地域公共交通計画

- 「あいち交通ビジョン」の理念と「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき、「愛知県地域公共交通計画」を策定 (計画期間:2024年～2026年度)
- あいち交通ビジョンに基づき、県として行う施策を位置づけたもの

目指す公共交通像

安心・便利な暮らしと、活発な経済活動を支える  
公共交通の維持・充実

主な県の施策(3つの基本方針)

①	広域的な移動を支える幹線軸の維持・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名古屋駅のスーパーターミナル化を推進</li> <li>・鉄道駅の施設・設備のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化の取組を促進</li> <li>・地域鉄道が実施する安全安定輸送に必要な修繕・設備投資を支援</li> <li>・ホーム拡幅やコンコース拡大等の駅総合改善事業を支援</li> <li>・市町村間交通を支える路線バスに対し運行経費を補助 など</li> </ul>
②	公共交通ネットワークを支える仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タクシー、乗合タクシー、新モビリティ等の活用方法を検討 など</li> </ul>
③	公共交通をみんなで使い、支え、育てる意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車から公共交通への転換を促進するための情報発信や啓発 など</li> </ul>

3

# あいち交通ビジョンの進捗評価

◎・・・目標を達成又は達成見込み  
○・・・概ね順調に進捗  
△・・・目標を下回る



取組指標	策定時	目標	現状	達成状況
地域公共交通計画の策定	—	策定 (2023年度)	策定	◎
市町村における地域公共交通計画 及び立地適正化計画の策定	16市町	30市町村	33市町 (策定予定を含む)	◎
MaaSや新型輸送サービスの 導入	—	新たに10件	14件 (2026年3月末)	◎
自動運転実証実験件数	28件 (2016～2019年度)	40件 (2025年度)	76件 (2026年3月末)	◎
ホームドア・可動式ホーム柵の 設置	95駅 (2020年度末)	111駅	110駅 (2026年5月末/ 完了見込みを含む)	○
ユニバーサルデザインタクシー の導入率	17.1% (2020年度末)	25%以上 (2025年度)	33.5% (2025年3月末)	◎
安全性確保が必要な バス停留所数	520箇所 (2020年12月)	改善	318箇所 (2026年3月末)	◎
事業区間内線路の高架切替率	15% (2020年度末)	30.8% (2025年度)	27.3% (2026年3月末)	○
水素ステーションの整備数	累計27基 (2019年度まで)	100基 (2025年度)	31基 (2026年6月)	△
エコモビ推進協議会構成員数	325団体・名 (2021年8月末)	375団体・名	378団体・名 (2026年5月末)	◎

# 愛知県地域公共交通計画の進捗評価

◎・・・目標を達成又は達成見込み  
○・・・概ね順調に進捗  
△・・・目標を下回る



取組指標	策定時 (2023年度末)	目標 (2026年度末)	現状	達成状況
広域的な公共交通の路線延長	1978.7km	1978.7km	2022.4km (2025年3月末)	◎
地域間幹線系統により結ばれる 市町村数	44組 ※1	44組 ※2	44組 ※3	◎
地域間幹線系統の1系統あたり 年間輸送人員	8.2万人/系統 ※1	9.0万人/系統 ※2	8.7万人/系統 ※3	○
地域公共交通計画策定 市町村数	34市町村	54市町村	45市町村 (2026年末見込/ 策定中を含む)	○
地域公共交通会議設置 市町村数	49市町村	54市町村	50市町村 (2026年3月末)	○
鉄道事業者が地域公共交通会議 等に参画している市町村数	36市町村	増加	37市町村	◎
タクシー事業者等が地域公共交 通会議に参画している市町村数	47市町村	増加	49市町村	◎
旅客船事業者が地域公共交通会 議等に参画している市町村数	3市町	増加	3市町	○
モニタリング指標	策定時	現状		
市町村間を跨ぐ鉄道の 年間輸送人員	53,313万人	66,745万人		※1 2022年10月～ 2023年9月 ※2 2025年10月～ 2026年9月 ※3 2024年10月～ 2025年9月
県内の地域内フィーダー系統数	229系統 ※1	253系統 ※3		

## 【参考】計画期間中の主な取組(県)

6

### 県における主な取組実績(持続可能な移動手段の確保・充実)

○地域住民の生活に必要なバス路線の維持・確保や、新型コロナウイルスや燃油価格高騰の影響を受け厳しい状況にある公共交通事業者に対し、運行を継続するための支援を実施  
また、利便性の向上に向けて、交通系ICカードシステム導入に対し、支援を実施

#### 乗合バス路線維持対策

複数市町村を跨ぐ広域的・幹線の路線について、その運行にかかる経費を支援  
2025年度からは補助対象路線を拡充(要件緩和)

##### 【補助対象経費】

路線維持費(標準経常費用と経常収支の差額)  
車両減価償却費等

##### 【補助割合】

1/2(外に国1/2)

##### 【県補助対象路線】

7事業者・33系統(2025年度)



#### バス事業者交通系ICカードシステム 整備促進

##### 【補助対象事業者】

豊鉄バス(株)

##### 【導入整備期間】

2023年度～2024年度  
(2025年3月利用開始)



#### 燃油価格高騰対策

燃油価格高騰の影響を受け、厳しい状況にある公共交通事業者に対し、運行を継続するための支援金を交付

##### 【補助対象】

- ・鉄軌道事業者
- ・バス事業者
- ・タクシー事業者
- ・定期航路事業者

7

鉄道輸送の安全確保や、利用者の安全性・利便性の向上に向けて、鉄道施設の修繕や設備投資、耐震・浸水対策、ホームドア設置、JR刈谷駅のホームの拡幅やコンコース拡大などに対し、支援を実施

地域鉄道事業者への支援

新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい経営状況にある県内地域鉄道会社を対象に安全安定輸送のため先送りできない必要な修繕や設備更新に対し支援を実施

腐食



マクラギ更新

【補助対象事業者】  
愛知環状鉄道(株)、豊橋鉄道(株)

【補助対象事業の内容】  
安全安定輸送、利便性向上に関わる事業

鉄道施設安全対策

大規模地震や河川氾濫・局地的集中豪雨等による鉄道施設の被害の未然防止や拡大防止を図るため、鉄道事業者へ支援を実施。  
2025年度に新たに支援制度を創設。

【補助対象】  
複数市町村を跨ぐ路線を有する鉄軌道事業者  
又は軌道経営者(東海旅客鉄道(株)を除く)

JR刈谷駅総合改善事業

県中央部の重要な交通結節点として1日1万人以上が利用するJR刈谷駅の安全性と利便性の向上を図る駅改良事業に対し支援を実施

【事業主体・整備駅】  
JR東海・刈谷駅

【主な事業内容】  
ホーム拡幅、コンコース拡張、  
ホームドア設置、エスカレーター増設、  
地域交流拠点施設新設



【完成イメージ】

ホームドアの設置促進

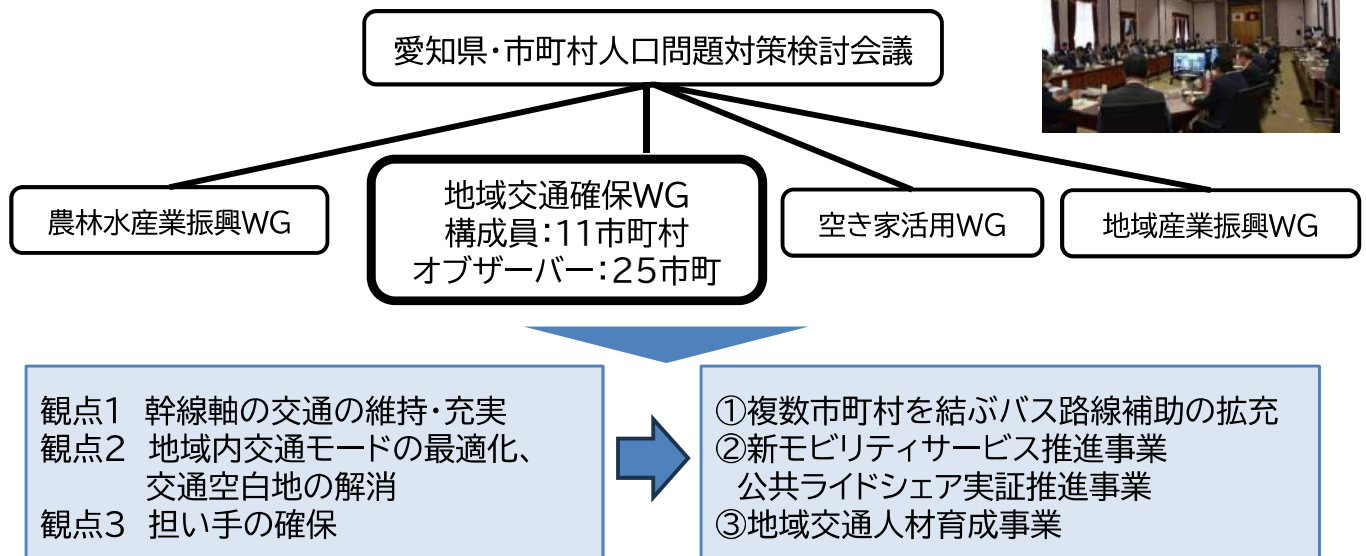
高齢者や障害者等、全ての駅利用者のホームでの転落・接触事故防止に効果のあるホームドアについて、その設置を促進するため、鉄道事業者へ補助する市町村に対し支援を実施。

【補助対象】  
ホームドアを設置する鉄道事業者に補助を行う市町村

人口問題対策検討会議

- 2024年5月に「愛知県・市町村人口問題対策検討会議」(会長:愛知県知事)を発足
- その中で「地域交通の確保」を検討議題とする「地域交通確保ワーキンググループ」を設置。  
地域の実情に応じた施策を協議

体制



○日常生活や地域間の交流に不可欠な地域交通の確保・活性化に向けて、新たなモビリティサービスの普及促進に向けた実証実験の実施、公共ライドシェアの立上げ支援、地域における交通やまちづくり人材育成に向けた研修会の開催等を実施

新モビリティサービスの推進

MaaS実証事業

地域の交通事業者との協働で、地域に根ざした MaaSアプリを導入し、地域住民や来訪者の移動の利便性・回遊性を高め、地域活性化を図る。



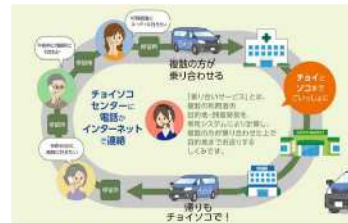
2024年度  
東三河MaaS「いこまい」



2025年度  
おとなりバスなび尾張北部

AI オンデマンド交通実証事業

地域の実情に応じた市域を跨ぐ移送手段の確保や、高齢者の移動を考慮した生活交通の確保、外出促進等の課題解決に向けて、隣接市を含む目的地との運行を行うAI オンデマンド交通の実証実験を実施



2024年度  
瀬戸市・尾張旭市  
2025年度  
南知多町・美浜町

公共ライドシェア実証推進事業

地域の実情に合った交通モードとして、公共ライドシェアの立上げを支援するため、コーディネーターを派遣(2025年度:岡崎市、田原市、設楽町)

地域交通人材育成事業

地域の交通やまちづくりに取り組む人材の育成を図るため、公共交通事業者や市町村職員等を対象に研修会を開催

- 名古屋市内でロボットタクシー、知多エリアで自動運転高速バス、愛・地球博記念公園で園内バスの無人化の取組を実施
- あいち自動運転ワンストップセンターを通じ、県内各市町村の実証事業を支援し、実装を加速

愛知県の運行・実証事業

【概要】

- ◆ 交通量の多い都市部におけるロボットタクシー導入(名古屋市内)



- ◆ 大型観光バスによる高速バス路線の自動運転化(知多半島道路等)

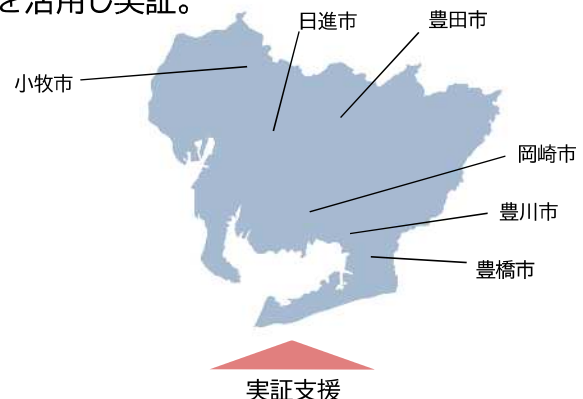


- ◆ 多数の歩行者が行き交う公園内の来園者移動バスを自動運転化(愛・地球博記念公園)

県内市町村の実証事業

【概要】

地域の移動課題に応じた自動運転の実装に向け、2025年度は県内6市が国交省補助金を活用し実証。



あいち自動運転ワンストップセンター

(リニア中央新幹線の整備促進と開業効果の広域的な波及)

- リニア中央新幹線(東京－名古屋間を40分)が開業予定
- リニア開業による首都圏との時間短縮効果をより広域的に波及させるため、名古屋駅のスーパーターミナル化、名古屋駅からの鉄道ネットワークの充実強化等の取組を推進

リニア中央新幹線の整備

ルート概念図



東京－名古屋間：所要時間40分  
東京－大阪間：所要時間67分

名古屋駅のスーパーターミナル化

【ターミナルスクエア】

乗換先が一目で見渡せ、上下移動も円滑にでき、案内機能も備えた 広場空間を5か所設置



名古屋駅からの鉄道ネットワークの充実強化

【名古屋駅と西三河主要都市の速達化】

知立駅付近の連続立体交差化や、名鉄三河線の一部複線化などにより、名古屋駅－豊田市中心部駅間などの所要時間を短縮



12

県における主な取組実績(県内周遊観光の促進／利用促進等)

ジブリパークを契機とした周遊観光の促進

ジブリパークを起点にリニモ沿線を巡る周遊プランや観光スポット、お土産等を紹介するWebサイトやリーフレットを作成し、多言語（日本語・英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語)での情報発信を実施



Webサイト  
「Linimoでグルメ&おでかけ」



ジブリパークをイメージしたラッピング車両の運行  
(2022年10月15日から運行開始)



全9編成のうち1編成  
1日15往復程度運行中

エコモビリティライフの推進

- ・ クルマと公共交通、自転車、徒歩などをかしく使い分ける「エコモビリティライフ」(エコモビ)を県民運動として推進。セミナーの開催や、県内事業所にエコ通勤を呼び掛ける「エコモビ実践キャンペーン」を実施。
- ・ 構成員は県内全市町村を含む378団体・名



利用促進の取組

沿線市と設置する協議会等において、ウォーキングイベントや車両基地見学、絵日記コンテストなど利用促進に向けた取組を実施



13